

特集

気仙沼大島へカーフェリー 1か月半ぶり就航



就航を再開した大島航路のカーフェリー＝27日午前11時ごろ、気仙沼市南町海岸

気仙沼市と離島・大島を結ぶ大島航路に27日、カーフェリーが就航した。東日本大震災から約1か月半ぶりに車両での往来が可能になった。初日は物資を携えたボランティアが大島に渡ったり、島民が生活の足として利用したりした。

ペットの支援活動をしている仙台市のNPO法人「エーキューブ」は段ボール25箱分のペットフードを乗用車に積んで大島に渡った。村上淳子副理事長(51)は「同行した獣医師と共に頭数や栄養状態を把握したい。ペットのストレスについても調査する」と話した。

大島に暮らす養殖業小野寺悦子さん(57)は津波をかぶっ

た軽トラックを業者に点検してもらうため大島から運び出した。「給水や物資の受取場所まで歩くのに苦労した。島での生活に車は欠かせない」と語った。

フェリーは広島県江田島市から借り受けた船を使い、1日8往復する。乗り場は従来の商港岸壁が利用できないため、同市南町海岸の旅客船と同じ岸壁を利用する。

2011年04月28日木曜日